

# トビウオ通信 (H26 第 8 号)

(本誌はホームページでもご覧いただけます。ホームページにはバックナンバーもあります。)

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

## 《平成 26 年夏の漁況を振り返って》

今号は島根県の夏の漁業として代表されるばいかご漁業、あなごかご漁業、しいら漬け漁業、とびうお漁について、今漁期の漁況を振り返ってみます。なお、平年値は過去 5 年平均を用いています。

### ばいかご漁業 1 隻当たり漁獲量・水揚金額 平年を上回る

石見部及び出雲部のばいかご漁業は、小型底びき網漁業の休漁期にあたる 6 月から 8 月にかけて操業を行います。漁場は日御碕沖から浜田沖の水深 200m 前後の海域で、現在、大田市の漁船 4 隻が操業を行なっています。

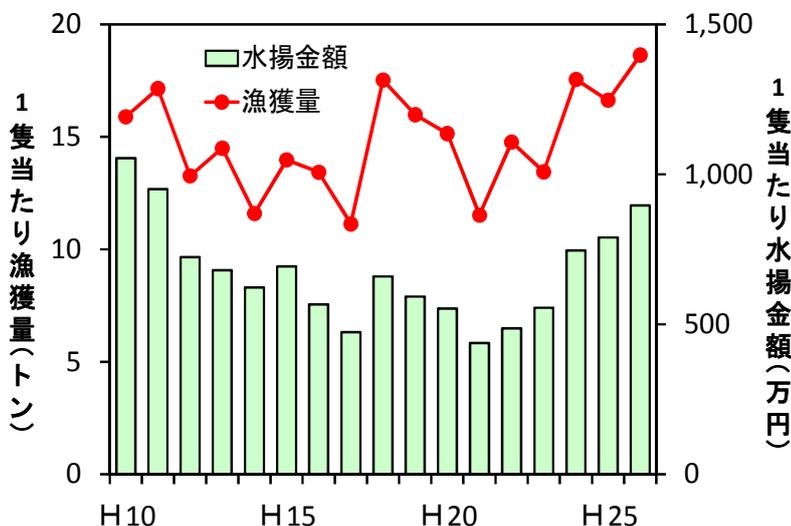


図 1 石見部および出雲部ばいかご漁業におけるエッチュウバイの 1 隻当たり漁獲量と水揚金額の推移

今期のばいかご漁業における総漁獲量は 86 トン (平年比 108%)、総水揚金額は 4,236 万円 (平年比 127%) で、漁獲量、水揚金額ともに平年を上回りました。また、漁獲対象であるエッチュウバイ (地方名: 白バイ) の漁獲量は 74.5 トン、水揚金額は 3,587 万円でした。図 1 にエッチュウバイの 1 隻当たり漁獲量と水揚金額の推移を示しました。エッチュウバイの 1 隻当たり漁獲量は 18.6 トン (平年比 126%)、水揚金額は 897 万円 (平年比 149%) で、平年を上回りました。また 1 航海当たりの漁獲量は 738kg であり、平成 10 年以降、最高の水揚げとなりました。

### あなごかご漁業 1 隻当たり漁獲量・水揚げ金額 平年を大きく下回る

島根県はアナゴ類の漁獲量が全国第 2 位 (平成 24 年) であり、その多くは底びき網漁業によって漁獲され、次いで夏季に操業を行なうあなごかご漁業で漁獲されています。アナゴ類は夜間に活動が活発になるため、その習性を利用して、夜間に漁具を設置し、餌かごによりアナゴ類を誘引して漁獲します。

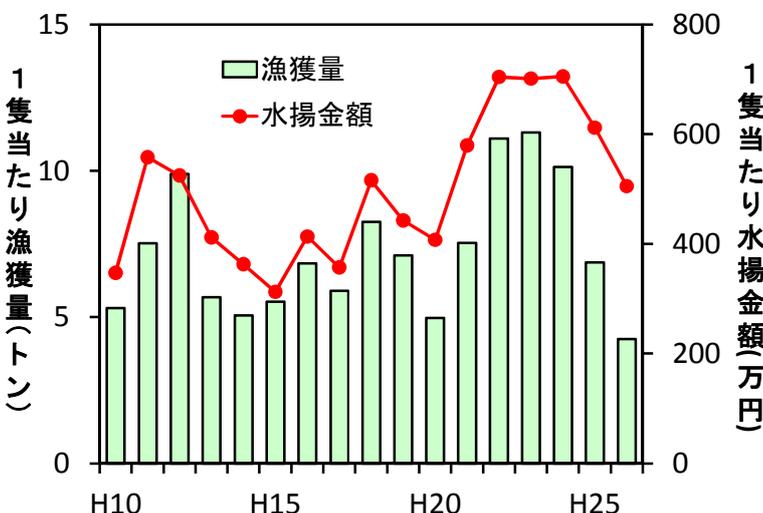


図 2 あなごかご漁業の 1 隻当たり漁獲量と水揚げ金額の推移

本漁業は、主に小底休漁期に石見地区で行なわれることから、ここでは 6~8 月を対象にまとめました。

今期の石見地区における水揚げ状況は、総漁獲量が 25.5 トン、水揚金額は 3,032 万円で、漁獲量は前年の 6 割、平年の 5 割、水揚金額は前年、平年の 8 割の水揚げに留まりました。1 隻当たりの漁獲量は 4.3 トン、水揚金額は 505 万円であり、量・金額とも平年を大きく下回り、漁獲量は平成 10 年以降、最低の水揚げとなりました。また、1 航海当たりの漁獲量は 157kg で、前年の 7 割、平年の 5 割の水揚げに留まりました。

## しいら漬け漁業

### 1 隻当たり漁獲量・金額 平年を上回る

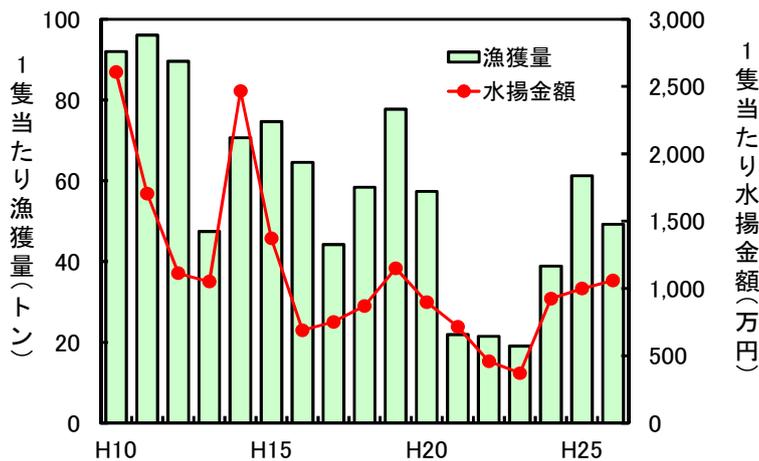


図3 しいら漬け漁業の1隻当たり漁獲量と水揚金額の推移

シイラ等の回遊魚には物陰に寄り添ったり、集まったりする習性があります。この習性を利用した漁法がしいら漬け漁業です。この漁法は、漬木（つけぎ）と呼ぶ竹の筏を海面に浮かべ、そこに集まった魚を網で漁獲するまき網の一種です。現在は、隠岐、石見地区で夏季～秋季にかけて行なわれており、小底休漁期に操業を行なう石見地区がその中心となっています。今期（6～8月）の石見地区における水揚げ状況は、総漁獲量が197トン、水揚金額は4,239万円で、量・金額とも平年並みの水揚げとなりました。1隻当たりの漁獲量は49.2トン、水揚金額は1,060万円であり、量・金額ともに平年の1.5倍の水揚げとなりました（図3）。

シイラとヒラマサの1隻当たりの漁獲量の推移（図4）を見ると、シイラは年変動が大きいものの、平成20年までは50トンを超える水揚げが多くありました。その後、一時低調な時期もありましたが、最近2年の漁獲量は以前水準まで回復しています。一方、ヒラマサは平成10年以降、二度の豊漁年（平成10年、14年）がありました。平成16年以降はまとまった漁獲がなく、低調に推移しています。

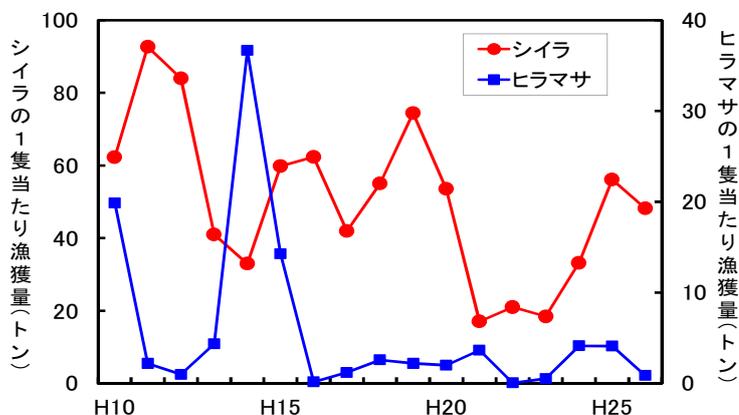


図4 シイラとヒラマサの1隻当たりの漁獲量の推移

## とびうお漁

### 漁獲量・水揚金額 平年を下回る

トビウオ類は、冬の間は南方で生活し、暖くなる初夏頃から産卵のため山陰沿岸に回遊してきます。島根県には5月から7月頃に来遊し、刺網、定置網、船びき網、まき網などの様々な漁法で漁獲されます。本県で漁獲されるトビウオ類は、主にツクシトビウオ（地方名：角アゴ、角トビ、大目）とホソトビウオ（地方名：丸アゴ、丸トビ、小目）の2種類です。トビウオ類は県下全域で漁獲されますが、ここでは漁獲統計が長期間にわたって揃っている地区を代表港（出雲部は美保関、島根町、御津、恵曇、大社、石見部は久手、和江、五十猛、仁摩、浜田、益田、隠岐は西郷、浦郷）として取り扱い、それぞれの値を集計しました。

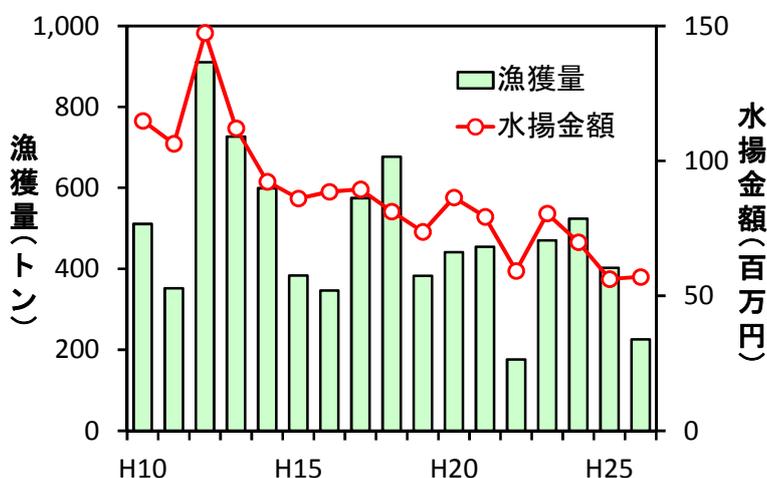


図5 島根県代表港におけるトビウオ類の漁獲量と水揚金額の推移

県下代表港におけるトビウオ類の水揚げ状況は、漁獲量が226トン、水揚金額が5,701万円で、漁獲量は平年の6割、水揚げ金額は平年の8割の水揚げに留まりました。漁獲量は平成22年に次ぐ低い値となりました。また地区別では、出雲部が69トンで平年の4割、石見部が63トンで平年の5割、隠岐が94トンで平年の8割の水揚げとなり、出雲部、石見部の減少が顕著でした。

主な漁業種類別の漁獲量は、定置網が122トン、刺網が36トン、まき網が32トン、船びき網が22トンでした。また、種類別の漁獲は、ホソトビウオが173トン、ツクシトビウオが53トンで、ホソトビウオが多く漁獲されています。